

大久保鉄工安全通信

2020年 夏期号 (Vol.5)

労災絶滅に PDCA サイクルを活用しよう!!

クレーン災害

建方現場に限らず、天井クレーン等を使う工場内作業でも「クレーン災害」が発生する可能性があります。クレーン災害には「クレーンの倒壊」、「吊り荷の落下」、「吊り荷の激突」、「吊り荷との挟まれ」があり、どれもが重大災害につながるものです。

防止策は“当たり前”を励行するだけです。つまり「点検整備」、「適正玉掛」、「基本通りの操作」、「移送経路の安全確保」、「十分な退避距離の確保」です。

このどれか一つでも欠落すると高い確率で重大災害が発生します。

墜落・転落災害



建方現場における高所作業で高頻度で発生します。防止策は安全仮設の適正な使用が最も重要です。現場によっては安全仮設が適切に設置されていない場合がありますが、このよう場合は作業所長へ安全仮設の設置を要求し、設置の完了まで作業を中止する決断も必要です。

高さ 2.0m 以上の作業床以外の場所での作業では、墜落制止用器具(旧称「安全带」)の使用が義務付けられていますし、高さ 5.0m 以上の場所での作業の際はフルハーネス型墜落制止用器具の使用が義務付けられています。

墜落災害ではほとんどの被災者は墜落制止用器具を装着していたにもかかわらず、ランヤードのフックを親綱に掛けていなかったというのが殆どです。これでは安全仮設の意味がありません。墜落制止用器具にはいろいろなものがありますが、ランヤードが 2 本ついているものが良いでしょう。親綱支柱近辺でのフックの架け替えでは必ずフックを外す前に、もう一方のフックを親綱にかけてから他方のフックを外す(どちらかのフックの最低 1 つは親綱にかけられている)ようにすれば、確実に墜落災害は避けることができます。上下移動の際のセーフティブロックの使用は当然です。

PDCA の活用

労災絶滅に限らず、すべての業務改善には PDCA の活用が基本です。

Plan: KY 活動を行って「こう(そう)しよう！」を考えよう！

Do: Plan に則って作業する。

Check: 作業した結果どうだったか？ヒヤリハットは？災害は？

Action: KY 活動を行い改善すべきことは何かを考えよう！



ハインリッヒの法則とは

1 件の重大災害の背景には 29 件の軽微な災害の発生、29 件の軽微な災害の背景には 300 件のヒヤリ・ハットが発生しているというものです。そして最も恐ろしいことは、ヒヤリ・ハットをヒヤリ・ハットとして認識しない「馴れ合い作業」です。確実に死亡災害への道を進んでいると言えるのです。